

第 5 7 回 病 診 連 携 委 員 会 要 録

日 時 平成26年9月29日(月) 午後7時45分
場 所 浪速区医師会 会議室
出席者 浪速区医師会 : 9名
南 医 師 会 : 2名
西成区医師会 : 2名
愛染橋病院 : 2名
大野記念病院 : 2名
浪速生野病院 : 2名
多根総合病院 : 1名
富永病院 : 2名
大和中央病院 : 2名
内藤病院 : 2名
育和会記念病院 : 2名
千本病院 : 2名
日生病院 : 2名
地域包括支援センター : 1名
居宅介護支援事業者連絡会 : 1名
ウィンテックシステムズ : 1名
浪速区医師会事務局 : 1名

今回は西成区医師会、日生病院から参加があった。

議 題

1. 第56病診連携委員会報告について(資料1)
前回委員会での議事内容の報告と確認を行った。
2. 病診連携委員会のアンケート結果について(資料2)

《地域連携室に対する質問》

質問① 貴病院が良く連携する病院を教えてください？

多くは公的な役割を果たしている病院との連携(大阪赤十字病院、大阪
市立大学付属病院、府立急性期医療センター、国立病院機構など)を挙げ
ておられたが、ブルーカード参加をされている病院も多数含まれていた。
また、NTT西日本病院や大阪掖済会病院、住友病院等も挙げられており、
当会としても興味深い結果となった。

質問② ご自身の地区で、どの疾患の連携にご苦労されますか？

圧倒的に多く回答を寄せられたのが精神疾患であった。中にははじめは
落ち着いていると言っていたものの入院後に変貌するケースもあるとの意
見もあり、各施設苦慮されている実態が明らかになった。

質問③ DNRを希望される患者さんにおいて貴病院の方針を教えてください？

基本的には本人、家族の意向を最優先に考えているとのことであった。

《開業医への質問》

質問① ブルーカード登録以外にDNR契約を患者さんとされることはありませ
るか？

特別な契約を交わしていると回答した施設はほとんどなく、あったとし
ても簡易式の契約または口頭での約束にとどまっているとのこと。

- ② 今後、医療介護連携において、多職種連携の会議の次に何をしていくべ
きと思われますか？

介護主体で行われているため、今後は医療主体で進めていくべきとの意
見も聞かれたが、一方で本来の多職種連携の会議自体が介護主体で行うこ
とを目的としているとの意見も聞かれた。また近隣医師会との連携強化、
地域病院とのネットワーク構築、患者目線での包括的な連携、医師との連

絡網充実などが必要とする意見も聞かれた。

《包括ケアマネへの質問》

質問① 他地区の包括および介護事業所の連携はスムーズですか？

(居宅) 地区にもよるが、比較的スムーズとのこと。

(包括) 総合相談においては他地区も問題なく連携できているが、介護事業所に関しては他地区であると積極的にバックアップが必要なケースもある。区内においては連絡会を通して密な連携が取れているとのこと。

質問② 浪速区エリアにおいて、訪問リハビリやデイケアも含め、重要と供給のバランスで、少なくとも困る事はありませんか？

(居宅) 区内は少ないが他区の施設を利用しているので問題ないとのこと。

(地域) 一般的なりハビリは訪問やデイケアが必要となることがあるが、機能訓練や介護予防のリハビリは通所介護での対応が可能となっている。区内の通所介護を利用する方が増加傾向にあるとのこと。

3. 西成区医師会の在宅医療の取り組みについて

これまでの西成区医師会の取り組みとしては、医師会員の診療所、場所、または介護事業所の連絡先などを記した医療マップを複数回発行していることを基本に、各診療所、医師にそれぞれの行動をゆだねているのが現状である。また認知症患者さんに対してはホットネットを利用して現在4か所ある包括支援センターと協力のもと、環境を整備している。そこでは月に1度連絡会、年に1度勉強会を開催し連携を強化している。しかし病診、診診連携、在宅に関してはまだまだ課題があると考えておられる。今後医師会にコーディネーターのような部署を設け、逆紹介時や在宅医療を開始する際に会員へのスムーズな紹介ができるシステムを考案中であるとのこと。

現在は薬剤師会、地域包括等と一緒にネットワーク委員会を作っており、1年以内に運用を開始したいと考えているとのこと。

4. ブルーカードシステムを利用した在宅療養後方支援病院の患者の診療情報の交換について(ウィンテックシステムズ)

まず在宅後方支援の基本的な流れに関して福井県済生会病院を例に挙げて説明していただいた。ブルーカードを使用した場合、まず医師会側は在宅後方支援の専用フォルダに患者情報をアップロードし、病院側は3か月ごと(80日をめどに)にブルーカードに確認依頼をする。診療所側はブルーカードファイルサーバーにログイン後確認依頼のあるカードの内容を確認する。そこで問題点として病院側には週に1, 2回確認してもらうことは可能であろうと思われるが、診療所側はログインされないケースが出てくるのではないかと懸念する。そこで、自動的にプッシュ通知なるものを加えることとした。以上の内容を実際に稼働しながら説明していただいた。

5. その他

(1) 富永病院からの連絡

富永病院より在宅療養後方支援病院としての登録および、ブルーカードも一次連携としての参加へ変更していただくとのこと。

また、エルカーサ富永からのブルーカード登録を予定しているとの連絡があった。

(2) 日生病院からの質問

一次病院から一次病院への転送はあり得るかとの質問に対しては、十分にあり得るとの返答が会場からなされた。また、11月22日第5回ニッセイ看護研究会の案内があった。

(3) ブルーカードの動向

ブルーカードの登録件数(浪速区内の医師より487件、他地区の医師から102件、使用状況(のべ件数) 749件 9月1日からのカード動向70件(更新23件、入院6件、中止8件、新規26件、死亡1件)。

次回会議予定 平成26年10月27日(月)午後7時45分～